

ホームステイにおける日本語学習の効用 : ホームステイ、留学生、日本語教員の視点から

著者	鹿浦 佳子
雑誌名	関西外国語大学留学生別科日本語教育論集
巻	17
ページ	61-112
発行年	2007
URL	http://id.nii.ac.jp/1443/00005881/

ホームステイにおける日本語学習の効用 ーホームステイ、留学生、日本語教員の視点からー

鹿浦 佳子

要旨

ホームステイは、その国の文化、考え方、習慣などを理解するのに役立ち、その言語を使用する機会が増すため言語の学習にも役立つと一般的に言われており、関西外国語大学でもホームステイプログラムを勧めているが、実際本当に言語学習効果はあるのかは客観的に測定し難い。留学生はホームステイとのコミュニケーションの型の違いにより不満・ストレスを感じ、そのことが言語学習意欲を低下させ、ひいては学習にも影響していることがわかった(鹿浦・武田 2000)。今回ホームステイの日本人家族と留学生、日本語教員にアンケート調査を行い、さらに具体的な問題点、傾向を浮き彫りにし、ホームステイに関わる人に留学生の日本語学習効果を高めるためのヒントやアドバイスが出来ないかと試みた。

【キーワード】 ホームステイ、留学生、日本語教員、日本語学習、アンケート、コミュニケーションの型、学習効果

1. はじめに

関西外国語大学の留学生は日本人家庭、セミナーハウス(大学の留学生用寮)、オフキャンパスのアパートや外国人ハウス等に住み日本の生活を送りながら毎日日本語のクラスに通ってきている。日本語のクラス内や教室がある建物内では出来るだけ日本語を使用するよう「日本語だけを使うというポリシー」も作成し学生に促しているが、クラスの時間も日本語に接する状況も限られている。日本の家族とともに暮らすホームステイを住居として選ぶと日本人と接する機会と時間が増え日本語の自然なアウトプットが増え、また、実際の環境で使用する場面に遭遇するため、日本語の使用頻度も多くなるはずである。では、日本語を上達させたいのなら留学生は皆ホームステイを行い、

日本語を学習すべきだと強く奨励してよいのか。現実には留学生が住居を選択する場合の要因は日本語学習だけではない。経済的に一定の費用を費やしたくないという理由や、肉食主義者やアレルギーを抱える留学生は食生活上、自分で料理をした方が都合がいいという理由や、経済的にアルバイトをする必要があるためなどの諸事情で、セミナーハウスや、キャンパス外に生活の場を置く留学生も近年目立ってきている。鹿浦・武田(2000)では、ホームステイの功罪があり、家族と留学生の考え方や相性がうまくいく場合は非常によい結果を生むが、お互い理解できなくてコミュニケーションがうまくいかないと却って日本の印象、留学生の印象を悪くしてしまうといったケースもあった。日本語で話してほしいのに、家族は英語の練習が目的のため英語ばかり話されてなんのためにホームステイをしているのか分からないと不平を言う留学生もいた。反対に日本語がほとんど話せない初級レベルの学生はホームステイ家族が日本語で話す努力をしても、留学生の日本語能力が足りず、英語に頼らざるを得なくなる。その場合、英語が話せない家族に対して留学生は不満を持つことがある。学生の日本語のレベルはどこか、ホームステイ家族の英語のレベルはどのくらいか、学生がホームステイ家族に何を望み何をするつもりか、またホームステイ家族が学生に対して何を期待し、何を提供しようと考えているのか。それらがお互いうまくかみ合う時、初めて効果があると言えるし、ホームステイして本当に良かった、ホームステイのおかげで日本語がうまくなり文化習慣を知ることが出来たと学生は言い、一方ホームステイ家族も素晴らしい真面目な留学生で新しい子供が出来たようだったと褒め称えることになる。では、実際にどのくらい学生はホームステイで日本語を話しているのか。ホームステイ家族も留学生の日本語学習を支援しているようだが、それを妨げる要因は何なのか。その実態、成果はよく分からないのが実状である。留学生やホームステイ家族は実際にホームステイでは日本語で話しているのか。どんな内容について話しているのか。ホームステイの家族との日本語でのコミュニケーションはうまく行われているのか。留学生の意識はどうか、疑問はさまざまである。そこで、'07秋学期の半ばにホームステイの家族、留学生にアンケートを行った。また、日本語教員にはホームステイをしている学生の日本語運用能力を尋ねた。毎学期国際交流部独自でおこなっているホームステイプログラムのアンケートも項目を系統的に立て直し可能な限り多くの感想・意見をまとめて載せておく。

2. 学生とホームステイの情報

最近のハウジングの傾向 (表1)

housing	95/96	00/01	05/06	07 春学期	07 秋学期
ホームステイ	215(63%)	248 (42.5%)	302(45.2%)	97(23.9%)	145(33%)
セミナーハウス	83(24.3%)	243(41.7%)	342 (51.2%)	265(65.3%)	279(63.6%)
アパート	43 (12.6%)	92(15.8%)	24(4%)	44(10.8%)	15(3.4%)

ホームステイをする学生の絶対数は増えているが、全体の割合は 05/06 年からセミナーハウスに 1 位の座を取られて以来、2 位のままでいる。学生は秋学期にコースを始め、次の春学期までの 1 年滞在する学生が大多数である。最初の学期にまず日本の生活が体験できるホームステイを行い、次の学期には費用が安く賄え、比較的自由なセミナーハウスに移るケースが多くなる。このような傾向の中で、2 学期ともホームステイ、しかも慣れた同じホームステイを希望する学生も少なくないのはホームステイの効用があるためであろう。ホームステイの 145 家庭のうち 100 家庭から、ホームステイをしている留学生 145 人のうち、49 人からアンケートの回答を得た。セミナーハウスに住んでいる留学生のうち 50 人からもアンケートの回答を得た。日本語教員 12 名のうち、12 名からホームステイをしている学生の観察資料を得た。学期が終わってからホームステイ家族と留学生に対して関西外国語大学留学生別科が行っている記述式アンケートの過去 5 学期分を系統的にまとめ上げた。以下がその報告である。

日本語のレベルと国籍 (表2)

レベル	ホームステイの人数	各レベル内での割合	ホームステイ全体の割合	回答人数	回答総人数内での割合
レベル 1	13 人	15.7%	9%	7 人	54%
レベル 2	47 人	33.8%	32.4%	14 人	14%
レベル 3	41 人	44.6%	28.3%	10 人	10%
レベル 4	33 人	36.7%	22.8%	11 人	11%
レベル 5	9 人	42.9%	6.2%	4 人	4%
レベル 6	1 人	10%	0.7%	1 人	1%
アカデミック	1 人	25%	0.7%	1 人	1%
合計	145 人			49 人	

ホームステイをしている留学生の日本語のレベルは 3 が一番割合が多く 4 割以上で、レ

ベル5、レベル4、レベル2と続いている。

‘07秋学期のホームステイの学生の国籍 (表3)

1. アメリカ	108人
2. イギリス	5人
3. カナダ	5人
4. ノルウェー	3人
5. メキシコ、タイ、ドイツ、エクアドル	各2人
9. その他	10人
合計	145人

回答者の国籍 (表4)

1. アメリカ	32人
2. メキシコ	2人
3. ドイツ	2人
4. タイ	2人
5. フランス、ノルウェー、韓国、ブラジル一人ずつ、	

ホームステイをしている留学生を国籍別で見ると、アメリカの留学生が一番多い。

ホームステイする動機 (表5)

1. 日本語を上達させたい	32人
2. 日本の文化に接したい	25人
3. 自国の大学の規則	5人
4. 家族が欲しい	2人

「便利」寮だと一人部屋がもらえない」「アドバイスがもらえる」「前のホームステイがよかったから」「日本にいるのにホームステイをしないなんて考えられない」という意見もあった。しかし、セミナーハウスを選んだ学生の理由として「近い」「個人の自由が守られる」「インターネットが使える」「いろんな留学生と知り合える」「自立している」「他の人に気遣いをしたくない」「魚が大嫌い」「一度ホームステイをした」「安い」などがあるので、これらに関しては、ホームステイする際のデメリットの要因となっている。

ホームステイの回数	(表 6)
今回が初めて	31 人 (レベル : 1, 2, 3, 4, 5)
2 回目	11 人 (レベル : 2, 3, 4, 5, 6)
3 回目	3 人 (レベル : 3, 4)
4 回目	4 人 (レベル : 3, 5, アカデミック)
10 回目	1 人 (レベル : 不明)

ホームステイの家族は専業主婦が殆どだと予想していたが、実際は家の外で自分の仕事をしているホストマザーも少なくなく、家の仕事を手伝ったり、パートをしている人を含めると仕事をしているホストマザーと専業主婦とほぼ同率である。また、10 代の子供がいる家庭が 21、20 以上の子供がいる家庭が 14、おじいさん、おばあさんがいる家庭が 3、と家族が多い家庭が多くを占めていた。世代で見ると、10 代以下の子供を持つ家庭の世代は 30 代、20 代以上の子供と同居している家庭は 50 代、子供がいない家庭は 60 代以上が多い。10 代の子供がいる家庭が一番多い理由は子供に異文化を体験させたい、子供の国際コミュニケーション力をつけさせたい、英語に接したいというホームステイ側の受け入れ理由とも合致している。留学生の側も子供と接することで子供の言葉が理解できてよかった、高校生の偏見がなくなった、子供と一緒にいろいろな所に行けて楽しかったという意見が多く、子供を媒介としてコミュニケーションが円滑に行えたようだ。

3. ホームステイでのコミュニケーション

ホームステイ家族が英語を話すかどうか	(表 7)	
誰と英語を話すか	お母さん	22 人
	お父さん	12 人
	娘さん	5 人
	皆	3 人
誰も話さない		14 人

英語はどのぐらいの頻度で使う	(表 8)
頻繁に	0 人
よく	12 人
時々	14 人

たまに

15人

日本語を話す相手 (表9)

1. お母さん 40人
2. 子供 6人
3. お父さん 6人
4. おばあさん 1人

留学生の大多数がホームステイ家族が日本語を話してくれることに感謝しているが、初級レベルでおとなしく自信がない学生が英語を話せないホームステイ家族とコミュニケーションする場合媒介語がなく、コミュニケーションが出来なかったと言っている。教員の観察でもそのような留学生はホームステイ家族と話すことも日本語の宿題をみてもらうこともないのでますます日本語の学習に伸び悩むことになっているようだと答えている。

1日に日本語でコミュニケーションをする時間数 (ホームステイ家族のアンケートの回答から) (表10)

- | | |
|---------|------|
| 0.5～1時間 | 4家庭 |
| 1～2時間 | 50家庭 |
| 2時間 | 12家庭 |
| 2～3時間 | 15家庭 |
| 3～4時間 | 10家庭 |
| 4～5時間 | 7家庭 |
| 6時間以上 | 2家庭 |

ホームステイ家族と日本語を話す時間は1～2時間が最も多く、2～3時間、2時間、3～4時間、4～5時間と続く。6時間以上が2人と答えているが、大学から帰って寝るまで殆ど日本語でコミュニケーションしている計算になる。これらの数字は平日のみで、週末になると、もっと長くなると答えている。

家の中で日本語を話さない相手 (表11)

1. お父さん 22人
2. 子供 14人

3. お母さん 3人

4. おばあさん 1人

ホームステイでは日本語で話す相手は圧倒的にお母さんで、分からない時でも英語が話せるお母さんと話すというケースが一番多い。これは、やはりお母さんが家にいて話す時間が長いからであろう。反対にお父さんとは英語でも日本語でも話す機会が少ないのは家にいる時間が限られているためであろう。ホームステイの誰かが英語を話す家庭は多く、留学生の日本語能力が低い場合は、辞書の助けを得ながら、英語も媒介語としてコミュニケーションをしている。

ホームステイ家族と話すトピック

(表 12)

1. その日のようす、週末の予定	25人
2. ご飯、料理	21人
3. 大学、クラス、宿題、勉強	20人
4. 文化の違い	17人
5. 天気のこと	10人
6. 自分の国のこと	10人
7. テレビ番組	7人
8. 日本語の文法	5人
9. ニュース	4人
10. 日本の生活、政治、スポーツ、家族について	

ホームステイと話すトピックは、その日にあったこと、大学での様子、生活に根ざした食事、天気、テレビ番組が多い。日本語の宿題もホームステイに見てもらっているようだ。

ホームステイ家族以外の人と話すトピック

(表 13)

1. 趣味、好きなこと、映画、スポーツ	25人
2. 日本語、日本の生活	24人
3. 大学	18人
4. 予定、週末のプラン	11人
5. 文化の違い	9人
6. 自分の国のこと	8人

- | | |
|------------------------|----|
| 7. 異性について | 7人 |
| 8. 食べ物 | 7人 |
| 9. どこにどうやって行くか | 4人 |
| 10. その他スポーツ、アニメ、映画、ゲーム | |

これらのトピックを話す相手は、大学の友人、クラブの仲間が多く、店、レストランの人、道や電車の中で会った人と続く。ホームステイ家族以外、日本語で話す人はいなかったと答えた学生は6人もおり、ホームステイをしていなければ、日本語を話す機会を持ってない学生もいる。且し、ホームステイ家族との関係を優先するあまり、日本人学生との付き合いが悪くなったという学生もいた。

ホームステイで日本語のどんなことが学べたか (表 14)

- | | |
|--------------------------------------|-----|
| 1. クラスで習わない単語、動詞 | 25人 |
| 2. くれた言い方 | 17人 |
| 3. 日常生活で使う決まった表現 | 17人 |
| 4. 話す力、スピード、流暢さ、会話力 | 13人 |
| 5. 聞く力 | 8人 |
| 6. 大阪弁 | 7人 |
| 7. 発音、アクセント | 5人 |
| 8. 文法 | 4人 |
| 9. 俗語 | 4人 |
| 10. 読む力 | 3人 |
| 11. 子供との話し方、経験したことを説明する機会、助詞、敬語、ユーモア | |

クラスの外で日本語学習に効果をもたらせたこと (表 15)

- | | |
|---|-----|
| 1. ホームステイ家族 | 11人 |
| 2. 大学の日本人学生と話すこと | 9人 |
| 3. いろいろな所に出かけて電車の中で日本人と接したり、道を聞いたり店で料理を注文したり買い物をしたりして | 8人 |
| 4. カラオケで歌う、携帯で話す、テレビ、クラブ、漫画の本で、スピーキングパートナーと話す | |

記憶に残った日本語を使った場面 (表 16)

これは個人差があり人によりさまざまだが、

1. 道に迷った時
2. ホストの家族と旅行や運動会、お茶会等のイベントに行った時
何かを取られて、質問をされたり説明をする必要にせまられた時
3. 習った文法が使えて通じた時、
4. 携帯でホテル、コンサートの予約が出来た時
5. 日本語で人を笑わせた時

これらの理由として日本語が通じてよかった、日本語を話す喜びを感じた時、日本語を話したということが記憶に残るのである。

4. セミナーハウスの学生の日本語でのコミュニケーション

セミナーハウスの学生が1日に日本語を話す時間 (表 17)

0分	1人
20分	1人
30分	5人
1時間	10人
2時間	6人
3時間	2人
4時間	1人

セミナーハウスに住んでいる学生がクラス以外で話す日本語の平均時間は1時間である。ホームステイがホームステイで話す日本語の時間は1~2時間が一番多く、絶対的な時間もホームステイの方が長く、ホームステイにいると否が応でも日本語を使わざるを得ないため、セミナーハウスよりよい日本語学習環境にあると言える。

セミナーハウスの学生が日本語を話す相手 (表 18)

1. 日本人の友達	16人
2. RA、日本人ルームメイト	10人
3. スピーキングパートナー	3人
4. クラブの仲間	3人

ホームビジットプログラムというのは、ホームステイをしていない留学生が日本の生活を経験できるように日本の家庭を紹介して、随意に留学生と日本人家庭とが交流するというプログラムである。

日本語のクラス以外ではスピーキングパートナー、ホームビジット、セミナーハウスの日本人、クラブの日本人学生と日本語を話すことが日本語を学習し、上達したと感じている学生が多い。これはホームステイしていれば、当然与えられる環境であることから、ホームステイをしていない留学生はその環境を欲していることになる。忘れられない思い出として週末のホームビジットの家族との交流、日本人と旅行したこと、一人で駅のサインを読んで電車に乗って難波に服を買いに行ったことなどと個人的なレベルの逸話を答えているが、ホームステイの留学生同様、日本語を道具として使え、喜びを感じた時に日本語を習ったという実感が得られるようだ。

ホームステイの留学生が日本に来る前に勉強しておくべきだったと思うこと (表 21)

- | | |
|------------|------|
| 1. 日常会話 | 10 人 |
| 2. 漢字 | 8 人 |
| 3. 単語 | 6 人 |
| 4. くれた表現 | 5 人 |
| 5. 聞く練習 | 3 人 |
| 6. 基本的なマナー | 3 人 |
| 7. 文法 | 2 人 |

5. 日本語教員によるホームステイしている学生観察

ホームステイのおかげで日本語が上達したと留学生が自己評価しているわけだが、プロの日本語教員の目から見てホームステイをしている学生のコミュニケーション力、意欲、学習態度などに特徴があるかどうか聞いた。以下、紹介する。

- A. 会話能力が著しく伸びている。現在成績は中の上。留学前は自学自習で日本語を学習していた。文法能力は平均といったところだが、このところ語彙・表現能力が顕著に伸びている。特に意欲的に学習しているようにも見えないが、ホストファミリーや日本人の彼女とのコミュニケーションの賜物か。
- B. セミナーハウスの学生に比べるとイントネーションや発音、文末助詞の使い方が自然でこなれているようにも思える。発音や文末助詞の使い方などはきわめて自然で、

時々日本人かと聞き間違えるぐらいだ。他の学習者がついていけない程速いスピードの発話でも理解することができるようになった。文法能力よりも広い意味でのコミュニケーション能力に伸びが見られるようだ。

- C. 非常に会話能力が伸びた。常に新しい表現に興味を示し、クラスが終わってからも質問に来る。学習意欲は高い。言語学習能力も高そうだ。文法能力は平均並みだが会話能力が高い。机上の勉強よりもコミュニケーション能力を高めることに興味があるようだ。
- D. 外交的なタイプでホームステイにとどまらず交友関係が広いようで、関西弁や若者言葉をよく口にするのも日本人社会にそうした社会的ネットワークを広く持っているためかもしれない。
- E. 成績は優秀だが、内向的であり大きい声で話さない。しかし確実に文法力を固めており、会話能力もクラスではあまり目立たないが他の学生より伸びているのではないかと思う。宿題など、ホストファミリーにチェックしてもらうなど助力を受けているのではないかと思われる。
- F. 最初から会話能力が他の学生より突出していたが、今もホームステイ環境ならびに彼女の影響で会話力がめきめき伸びている。クラス外で身に付けてくる表現が多く、クラスの始まる前や終わった後にならず日本語表現について疑問点を質問してくる。
- G. イントネーション、発音など自然で、成績もコース開始時から上位。会話テストでもそつなくこなしている。
- H. ホストに教えてもらったという表現を授業中に披露したりする。ホストは「こう言った、ああ言った」と紹介してそれが正しいか尋ねてくる。好奇心からいろいろな表現が増え、語彙が増え、日本語をエンジョイしているように見える。テスト準備にもっと時間を費やしたいが、ホストと話して時間がなくなってしまうときがあると言っている。
ホストはほとんど英語を話さないということで、辞書を使いながらコミュニケーションを取っていると言う。授業中の質問にほぼ毎回正しく答えている。日本のテレビをホストと一緒に見て、話をするのが楽しみになっていると言う。ホストとの談話の時間が多くあるからだと思うが、聞き取りの力がとても強くなったと思う。日本文化への興味もあってホストと一緒にテレビを見ながら話をするようだ。
- I. 授業中の質問に答える時には、正確性を欠く答えが返ってくる時があるが、こちら

が訂正するとすぐに間違いに気づいたようで正しく直して答えを返してくる。なぜ、間違いが訂正されるのかを自分で声に出して反芻しているようだ。英語ではなく日本語のモードに入っているから日本語での発話ができるのだと思う。ホストにいろいろ教えてもらっているようで、教室では習わない言葉を使う時もある。ホストと住むことで自分の話す日本語に自信が持てるようになったと本人は言う。

J. 聞き取りの能力が増してきていると思う。最初の頃は日本の環境に慣れてなかったということもあったかもしれないが、今では授業中の質問でもしっかり理解して、正しく答えている。家にはホストのお母さん一人しかいなく、毎日家でお母さんと話しているから聞き取りの力が伸びて来ているのだと思う。最初の頃はお母さんの言っていることが 25%ぐらいしか分からなかったのが今は 100%ぐらい分かっていると本人も言っている。

K. 聞き取りの力がすばらしく、授業中私の言うことは 100%近く分かっていると思う。自分から進んで発表する学生ではないが、質問をするとほぼ毎回正しい答えが返ってくる。他の学生の聞き取りの間違いを訂正してあげている時もある。宿題を家に持ち帰ってホストの家族の人に教えてもらえるのが嬉しいと言っていた。毎日家でお母さんやホストの家族と話ができるということが、本人にとってとてもいい喜びと刺激になっていると言っている。今度ホストファミリーの家族の結婚式に招待されているということで本人はとても興奮している。

これはほんの一部のコメントであるが、教員の観察によると、ホームステイをしていない学生と比較すると、積極的に日本語を話そうとする、積極的に発言・質問をする、いろいろな言葉を習おうとする、学習意欲が旺盛で、真面目に授業に取り組んでいる、能力もあるし努力もしているし、クラスでも積極的によく話す、日本語で話すことへの抵抗感がない、日本文化・関西弁への関心が高い、会話に慣れてきている、順調に上達している、文法能力と比べて会話能力が高い、応用力があるという肯定的なコメントが多く見られた。日本語教員の学生観察では主観的で個人差があるとはいえ、ホームステイをしている留学生の多くに日本語の学習効果が見られるのは事実である。

問題もある。日本語のクラスではカリキュラムを組み、段階的に教えていくため、あるレベルのクラスで、特に日本語の下のレベルでは学生が使用する日本語が全て自然であるとは言えない。教育的観点から不自然な日本語もそのレベルでは容認している場合がある。ホームステイ家族が留学生の不自然な日本語を聞き、日本語教員は間違った日本語を教えているのかと教員への文句の電話が来たこともある。また留学生の宿題の訂

正など手伝ってくださるのはよいが、日本語レベルの低いクラスで未履修の語彙や表現を多く留学生に教えるホームステイ家族も見られた。ホームステイ家族が留学生の日本語学習に協力的なことは嬉しいが、教員がホームステイ家族に何らかの説明することも必要になってくる。問題がある場合には、日本語教員も担当の留学生のホームステイ家族と連携を取り合い、日本語使用状況などをホームステイ家族と話し合い、留学生の問題点を取り除き、日本語の学習支援が求められる。

6. 留学生からのアンケート

1) 家族との人間関係に関して

A) 家族との人間関係に関して良かったこと

- ・「I love my host family!!」。私のホストマザーは最高!
- ・この家族に出会えて、私は本当にラッキーだった。
- ・家族と深い絆を結べた事が本当に嬉しい。
- ・ホームステイが始まって数日で、「あなたともうずっと一緒に生活をしている気がする」と家族に言われるほど、すぐに打ち解けられた。この言葉がとても嬉しかった。
- ・幼い子供が大好きなので、子供と遊ぶことを本当に楽しんだ。日本語がまだ不十分な私は子供との遊びがとても楽しく、言葉に対する壁がなくなった。
- ・ホストファミリーは、家族であり、親友であった。本当に良い関係が築けたと思う。
- ・家族と小旅行や観光に行き、些細なことでも一緒に何かをするということが楽しく、嬉しかった。
- ・日本に新しい家族が出来た。帰ってきたいと思う場所ができてうれしい。
- ・家族と一緒に過ごす時間も友達と外で過ごす時間も、両方バランスよく尊重させてくれた。日本の生活を満喫できた。
- ・ホストマザーは「お母さん」というより、仲のよい友達のようなだった。また、本当の娘のように接してくれた。
- ・ホストファミリーの親戚や友達にも出会え、交流の幅が広がり、留学がより豊かなものになった。
- ・ホストファミリーは私を常に理解しようとしてくれた。私を家族の一員、一人の人間として受け入れて認めてくれたことは、大変うれしかった。
- ・家族と家にいることが、大変居心地が良かった。
- ・ホームステイのおかげで、ホームシックにならなかった。

- ・ホームシックにかかった時、ホストファミリーが支えてくれた。日本で生活する難しさを軽減することができた。
- ・本国の大学では、ルームメイトと住んでいてもホームシックになったのに、日本で全然ならなかったのは日本の家族がいたからだと思う。
- ・血が繋がっていないのに、こんなに愛せる家族が出来るとは思わなかった。
- ・本当の意味で第2の「家族」になってくれた。
- ・初めは何を喋ってよいのか、何が失礼にあたるのかがわからなくて緊張したけれど、慣れればなんでも話せる素晴らしい関係を築けた。
- ・これ以上望めないほど素晴らしい家族だった。来学期この家族のもとでホームステイが出来る学生は1番ラッキーな学生だと思う。
- ・毎日帰って、その日あったことを話せる家族がいるのがとても心強かった。
- ・自国と日本の相違点やその他の興味深いことについて議論できたのは楽しかった。
- ・お母さんは全く英語が話せなかったけれど、コミュニケーションに大切なのは、必ずしも言語を流暢に喋れることではなくて、お互いをどれだけ理解したいかだということをお母さんも私も知っていたと思う。
- ・一生かかっても恩を返すことは出来ないくらいよくしてもらった。
- ・素晴らしい人々で非常に楽しい時間を過ごすことができた。家族も同じように思ってくれたら良いなと思う。
- ・日本で自分をサポートしてくれる家族がいるのが心強かった。
- ・お互い正直に、何でも話すようにしていたのが、良い関係を築くのに役立ったと思う。
- ・帰れる家があって、自分のことを気にしてくれる人がいると言うのは、日本での生活の全ての面において非常に大切だった。最初は家族の生活に慣れるのが大変だったと思っていたけれど、全くそんなことはなかった。
- ・家族の誕生日パーティーがとても楽しかった。
- ・お母さんと料理などを通して交流が持てた。家に帰ってきて一日の出来事を報告するのが楽しみくらい良い関係を築けた。
- ・ホストファミリーの小さい子供と折り紙などをして遊び、楽しかった。
- ・ホストマザーと子供達の親子喧嘩を見ているのがとても面白かった。
- ・ホストファミリーが親戚などの集まりにも連れて行ってくれたので、自分も本当の家族の一員のように感じられたし、日本の親戚関係がどのようなものなのかを知ることが出来てよかった。

- ・本国では気にしていなかった水や電気の節約に関して意識が高まった。
- ・ホームステイをしなかったら知ることが出来なかったことがたくさんあったと思う。寮ではなくホームステイを選んで本当に良かった。
- ・次にホームステイをする学生に私の家族を是非お薦めしたい。
- ・ホームステイのおかげで日本について理解が深まったのに加え、授業では学べないことをたくさん学べ、一生に一度の素晴らしい体験をすることができた。
- ・日本の文化などに関してだけではなく人生の大切なことを学んだ。お父さんは仕事で忙しくても、家族と一緒に過ごす時間を大切にしていた。特別なことはなくても家族と一緒に過ごす時間を持つことこそが一番大切であり、家族を大切にするということだと教えてもらった。
- ・国は違っても、私たちはみんな同じだということがよくわかった。
- ・家族が私にしてくれた親切は絶対に忘れない。
- ・日本の日常生活に浸ることができた。
- ・家族は活動的で、よく一緒に出かけたり旅行にも誘ってくれ、とても楽しい時間を過ごせた。家族で行った旅行は忘れられない経験になった。

B) 家族との人間関係に関して残念だったこと

- ・家族がみんな忙しく、期待していたような親しい交流があまり出来なかった。
- ・お父さんもお母さんも忙しすぎて構ってくれなく、寂しい思いをした
- ・もっと家族と一緒に何かをするという機会があればよかったと思う。
- ・もっと家族と一緒に出かけたかったが家族の皆がとても忙しそうで誘えなかった
- ・日本の文化に触れる、あるいは、教えてくれるというような体験がなく、本当に残念だった。
- ・積極的に私と時間や話題を共有しようという姿勢が家族にはない様に感じられ、悲しかった。
- ・ホームステイプログラムがあまり有意義ではないと感じたのは、家族が悪い訳ではなく、私と家族が人間的に合わなかったからだと思う。
- ・もっとお手伝いをさせてほしかった。
- ・自分と家族のプライバシーに対する価値観の違いがあり、あまり良い時間は過ごせなかった。もっと私にオープンに接して欲しかった。
- ・数週間後には殆ど家族と会話がなかった。

- ・コントラクトの内容を忘れて友達を家に呼んでしまったとき、お父さんから怒鳴られたことがあった。
- ・家族が少しシャイなところもあり、どこか家族の一員になれないと感じた。
- ・会話がほとんどなく、家族が自分のことを好きなのかさえわからなかった。
- ・家族がホストファミリーをビジネスの為だけにしていると感じた。
- ・お母さん以外が自分に全く興味がなく、会話が無いのでなぜホストファミリーをしているのかわからないこともあった。
- ・過去に何度か留学生を受け入れたことのある家庭だったので、自分にはさほど興味がなさそうだった。自分の国での生活とはかけ離れた生活をするのに精一杯なのに、その上、家族と一緒にいても寂しかったり、孤独だったりするのはつらい。
- ・過保護に扱われるとつらい時がある。一人になりたいときや部屋にいたい時もあるが、決して家族が嫌だからではないことをわかってほしい。
- ・ホームステイに来客がある時は知らせてほしかった。
- ・外国人登録や通学定期の購入の手助けをして欲しかった。

2) 家族との意思疎通に関して

A) 家族との意思疎通に関して良かったこと

- ・お母さんとおしゃべりをとても楽しんだ。冗談を言い合って、毎日楽しかった。
- ・家族は何でも私と正直に率直に話してくれたのが嬉しかった。
- ・初めは身振り手振りで意思疎通を図り、家族もそれによく付き合ってくれた。
- ・英語と日本語をうまく使い分けてコミュニケーションが取れた。
- ・ホストファミリーは英語がわかるので、お互いを理解するのに助かった。

B) 家族との意思疎通に関して残念だったこと

- ・日本語上達の為に家族の方に日本語をもっと話して欲しい学生もいれば、日本語が初歩でもっと英語で話して欲しい学生もいる。その学生にどういう方法がいいか聞いて、英語・日本語の使い分けをするといいと思う。
- ・私に話しかけるのを躊躇していると感じた。私を快く受け入れてもらっていないようで悲しかった。
- ・何か問題がある場合、本人（学生）に直接話す前に本人の友達を通して間接的に、もしくは、本人（学生）には全く何も伝えずにまず交流部にだけ伝えられるのは、不愉快

快な気持ちが残ってしまう。日本では間接的な意志表現が良い、直接は言いにくいという気持ちは理解するが、何か問題や誤解があるときは、本人(学生)にはっきりと直接話して欲しい。その方が、良い関係を維持できると思う。

- ・日本の「本音とたてまえ」が理解できず、戸惑った。
- ・ホストマザーの気分を害すようなことをしてしまうと、自分と話すことさえも拒まれているようで、意思疎通に問題があったと思う。

3) 食事に関して

A) 食事に関して良かったこと

- ・お母さんの料理は本当に「めっちゃおいしかった！」。
- ・お母さんの料理がいつも楽しみで帰宅した。ホームステイの中で一番楽しんだのは、お母さんの料理と家族との食事だった
- ・レシピを教えてくれてうれしかった。
- ・食事が一緒に出来なくても、食べ物を作っておいてくれたり、必要なお金を置いておいてくれ、気を使ってくれて、ありがたいと思った。
- ・私が苦手なものや食べられないものを考慮しながら作ってくれ、大変だったと思う。本当に感謝している。
- ・栄養のバランスの取れた食事を作ってくれたので健康に過ごすことができた。
- ・お父さんの料理は素晴らしかった！同じ料理を食べたことがないほどお父さんの料理を本当に楽しんだ。
- ・おいしいと言うとお母さんの喜ぶ顔が見ることができた。食事中、たくさんホストファミリーと話が出来てとても楽しかった。
- ・本物の日本食を食べる経験ができた。本当の家庭の日本食を味わうことができた。
- ・ホストファミリーはベジタリアンの私をよく理解してくれた。ホームステイ初日にホストマザーが嫌いなものを聞いてくれたので特に問題はなかった。
- ・自分は菜食主義者だから、家族は大変だったと思うけれど、作ってくれる食事は素晴らしかった。
- ・好き嫌いが激しい私だが、食べられるものを一緒に見つけて寛容に受け入れてくれた。また、自分の分だけ気を遣って抜いてくれたりしてくれた。
- ・いつも私がちゃんと食べたか確かめてくれた。勉強で遅くまで起きているときも夜食などを作ってくれ、とても嬉しかった。

- ・今までに食べたことのないものをたくさん食べることができてうれしかった。まずは試してみて、苦手だとわかると無理に食べさせられることはなかったのがありがたかった。
- ・お母さんの作る料理が非常においしかった。毎日の夕食が楽しみだったので、自分の都合で家で夕食を食べられない時があると、悲しい程だった。
- ・一緒に料理をした。その時間がとても楽しかった。
- ・食べ物の好き嫌いを理解してくれた。日本食が苦手だったが、そのことも親切に受け入れてくれた。
- ・日本食はなじみの無いものが多かったが次第に好きになることができた。
- ・コレが好き、といったらすぐに用意してくれたのがうれしかった。
- ・好き嫌いを驚くほど覚えていてくれて、考慮してくれていた。

B) 食事に関して残念だったこと

- ・和風の朝食に憧れていたのに、家族はトーストとコーヒーだけで、自分にはシリアルとジュースだけだった。食事は本当に良かったが、自分が食べられる量より多すぎるのがよくあり、多いと言えずに困った。あるいは、多すぎるために結局捨てることになってしまって、申し訳なかった。
- ・量が多すぎて（あるいは少なすぎて）困った。もう少し少なく（増や）して欲しいと言うことは失礼だと思言えなかった。出される料理の量が多く、どのように伝えてよいかわからなかった。
- ・食事が口に合わず、お母さんに料理はどうかと聞かれても、正直にあまり好きではないと伝えることが出来なかった。
- ・お母さんは家族への食事と私への食事を分けており、自分は日本食を食べることができず残念に思った。
- ・夕食を取る時間が遅くて困った。
- ・野菜中心の食事、肉中心の食事を好む私には物足りなかった。
- ・1人で夕食を食べることが多かった。
- ・週末はお母さんが忙しくて、自分で食事を買って1人で食べるのが度々あった。
- ・朝食がパンだけだと物足りず、栄養のバランスがとれるものが食べたかった。
- ・食べられないものがあって何度も伝えているにもかかわらず食事の度に出てきた。
- ・朝食や夕食の時間が決まっていなかったため、いつ出されるのかわからず食べそびれ

ることがしばしばあった。

- ・アレルギーを好き嫌いとして理解されて悲しかった。

3) 生活習慣に関して（生活様式、門限など）

A) 生活習慣に関して良かったこと

- ・門限があっても、夕食を家族と一緒に食べる為の時間に帰りたいかつ、夕食後出かけることはあまりなかったので、あまり自分には関係なかった。
- ・門限はあったが、電話で連絡をすれば問題なかった。
- ・門限はなかったため、友達と過ごす時間が多く取れてありがたかった。
- ・門限がなかったため、時間を気にせず色々な場所を回れた。
- ・門限がなかった。でも家族にはいつも連絡するように気をつけた。
- ・11時の門限は適切だったと思う。週末など門限に間に合わないことはあったけれど、事前に連絡をすれば家族は許してくれた。
- ・最終電車最終のバスが門限だったので、理解できたし友達との交流も積極的にできた。
- ・家の鍵を持たせてくれた。
- ・遅くなる時や週末の予定などは早めにちゃんと連絡すれば、何も問題なかった。
- ・とにかく、お互いに連絡をマメにすることや事前に予定を伝え合うことが大切だと思う。
- ・家に友人を呼んだりすることに寛大で、一緒にお酒を飲んだり外食などができたこと。
- ・寒さ対策（ブランケットやヒーター等）もちゃんとしてくれてありがたかった。
- ・子供が3人とペットがいるにぎやかな家庭だったが、静かに勉強できるスペースもきちんと与えてくれた。
- ・家族は大学生がどのような生活をしているのかということを知っているようで、生活しやすかった
- ・日本らしい部屋がとても好きだった。日本での生活を満喫した。
- ・自分の慣れた環境で生活できないのは大変だったが、我慢強くもなったし、成長したと思う。
- ・携帯は持っていなかったが、学校のコンピュータから帰宅時間を知らせた。
- ・朝食や夕食が決まっていたので規則正しい生活ができた。

B) 生活習慣に関して残念だったこと

疎外感、コミュニケーション不足

- ・お父さんもお母さんも仕事で毎日忙しく、一緒に過ごせる時間が殆ど持てなかったの
で、もっと一緒に何かをしたり外出したかった。
- ・お母さんやお父さんが忙しいのは理解しているが、あまり家にいないので寂しい思い
をした。
- ・家族が忙しすぎて無視されているみたいだった。ホームステイというよりは部屋を借
りているだけの様な気がした。
- ・娘さんが自分を軽蔑しているように感じ、全く話をしてくれなかった。
- ・家族の誰かが自分のシャンプーや石鹸、ヘアケア用品を勝手に使っていた。
- ・洗濯に出した衣類が返ってこないものがあり、家族に聞いて良いかわからず困った。
- ・最初はあまりルールがないように思えたが、実際に生活を始めると本音と建前の差を
感じ、どのように行動してよいのかよくわからず困った。
- ・自分が当たり前と思ってやったことが日本ではタブーであったり、悪いことであるの
なら、面と向かって言ってほしい。なかなか言うしてくれなくて、ただ笑っていただけ
のことがあった。

日本文化を期待したが欧米式で残念だった

- ・日本様式の部屋やふとんを期待していたので、家族の家や生活様式は西洋風で適応し
やすかった反面、少し残念でもあった。
- ・ホストファミリーはお風呂に入る習慣がなく、日本文化を体験できず残念だった。

門限と鍵

- ・10時の門限は少し厳しかった。
- ・門限が厳しすぎた。事前に帰宅が遅れることを伝えても許してもらえなかった。
- ・門限は課せられなかったが、鍵を渡してもらえず不便を感じた時があった。
- ・鍵を渡されていなかったなので週末など寝ている間に家族が外出してしまい家を開けた
まま外出できず非常に不便だった。

日本の生活習慣への不慣れ、認識不足

- ・セントラルヒーティングが日本にはないことを知らず、非常に寒い思いをした。
- ・家の中に暖房器具がなかったので、冬非常に寒かった。
- ・日本の家にはゴキブリなどの虫がよく出ることを知らなかった。
- ・お風呂に入る順番が決まっていて、待たなければならず不都合だった。

- ・学校から家まで通学が遠かった。

4) 英会話の練習に関して・日本語学習

A) 英会話の練習に関して良かったこと

- ・教えることが好きなので、問題なく楽しむことができた。
- ・英語を教えるというよりは、アメリカの文化を教えているようで、異文化交流ができた。
- ・質問があれば教えるというスタイルで、教えやすかった。
- ・子供も楽しんでくれたり、家族の英会話が上達したりするのがうれしく、有意義だった。
- ・1週間に1回 English Night という日を決めてホストファミリーと英語で会話するようになった。
- ・日本語を教えてもらったのに対し、私は英語を家族に教え、良い言葉の文化交流ができた。

A') 日本語学習に関して良かったこと

- ・辛抱強く、私が理解できるまで説明してくれた。私の日本語がここまで伸びたのは何よりも家族のおかげだと感謝している。
- ・学校で習った文法や単語を家に帰ってすぐ使えた。
- ・お母さんとは日本語で話し、わからないことがあるとお父さんが英語で助けてくれた。
- ・一生懸命話し、それを理解してもらえた喜びは何事にもまさると思った。
- ・早口の関西弁で話してくれることで、リスニング力もつき、楽しかった
- ・テレビ番組やニュースの内容を日本語で、英語を交えながら説明しようと努力してくれた。
- ・聴き取り易い、簡単な日本語を選んで丁寧に辛抱強く話してくれたので、とてもわかりやすく、おかげで日本語が上手になった。
- ・最初は日本語だけの生活を困難に感じたが次第に慣れた。
- ・日本語のみの会話は、日本語の学習には良いのだけれど、自分の気持ちを伝える上でもう少し英語を使いたかった。
- ・常に日本語で話しかけてくれ、そのおかげで日本語能力がかなり上達した。
- ・子供たちとたくさん話げできた。
- ・一緒に映画を観て、意見を言い合い、分からなかったことを教えあったこと。

- ・ホストファミリーが標準語を使って話してくれたのでわかりやすかった。
- ・家族が英和辞書を持っていたから、助かった。
- ・お父さんが英語が堪能だったから、わからない時は英語で会話もでき、家族から日本語を話すことを勧められたので日本語も練習し、とても良いバランスだった。
- ・時々、お母さんがとても速く喋る事があり辛かったけれど、最終的には自分のリスニング力が上がったと思う。

B) 英会話の練習に関して残念だったこと

- ・英語の教え方や何から始めていいのかが分からなくて困った。申し訳なかった。
- ・もっと自由に教えてみたかったが、家族の希望がわからなかった。
- ・家族が英語を学びたいのは理解できるが、私の日本語の学習にも協力して欲しかった。
- ・英語の教え方が分からなくて困った。時間や教材を決めてあるとやりやすかった。
- ・家族が英語を学びたいのは理解できるが、英会話の練習だけではなく私の日本語の学習にも興味を持って欲しかった。子供に英語を教えるように頼まれたが、子供が興味を示さず日本語で話すと家族が怒るので困った。

B') 日本語に関して残念だったこと

- ・日本語の使い方を間違えると、家族から笑われたのが悲しかった。
- ・家族は一生懸命英語を使って話そうとしてくれたが、日本語で話しかけてくれるほうが実はありがたかった。
- ・日常会話は大丈夫だったが、深い話になると自分の日本語の不十分さを感じて、非常に残念に思った。
- ・自分の日本語能力は限られていたので、上手く話せず、家族も説明するのを諦めてしまったように感じた。ホームステイの最後の時期は会話もなかった。
- ・ホストファミリーは英語でいつも会話をしたがったので、私の日本語能力は向上しなかった。
- ・英語が堪能な人（主にお母さん）とは問題がなかったが、子供やお父さんとはあまりコミュニケーションがとれなかった。
- ・ホストファミリーは英語が得意だったので、会話が英語中心になってしまい、私の日本語能力が伸びなかった。もっと日本語を練習する機会が欲しかった。
- ・私の日本語能力に問題があったため、あまり家族と交流がもてなかったり、誤解を生

んでしまったりすることがあった。時にはお互いを理解するのが本当に難しく、ストレスのたまることもあった。

- ・自分の日本語能力のレベルがあまり高くないのに、家族に期待され過ぎ困った。

5) 異文化交流に関して

- ・日本人の生活や文化を自分も体験、話し合うことが出来たのが何よりも嬉しかった。
- ・自分の国のことや文化について知ってもらうことができ、うれしかった。
- ・予想していたような伝統的な文化を持つ家族ではなかったが、日本人の生の文化や生活を知れた。
- ・自分の国とあまり変わらないことも多いことに気が付いた。ベッド、シャワーなど「現代」の日本人の生活を知ることができたと思う。
- ・人生を永遠に変えるような経験だった。全てが素晴らしかった。
- ・日本に対する素晴らしいイメージを作ることができた。
- ・キリスト教の日本人の家族がいるとは思っていなかったので、驚いた。
- ・ホームステイすることで日本の高校生に対して抱いていた偏見がなくなった。
- ・ホストファミリー家族と仲良くなれたことは良かったが、その一方で関西外大の学生とはあまり親しくなる機会がなくなってしまった。

7. ホストファミリーからのコメント

1) ホームステイ全般を通じて

A) ホームステイ全般を通じて良かったこと

- ・お互い良い信頼関係を築くことができ、本当の息子・娘のようになれた。
- ・何でも話して、深い関係を結べた。今後も続く良い人間関係ができた。
- ・家族が増えて、家の中が明るくにぎやかに、楽しくなった。家族が一つにまとまり家族団欒の時間が増えた。
- ・趣味が合い、話題も増えたので楽しかった。
- ・子供に同じ目線で優しく接してくれて、嬉しかった。
- ・子供が外国人と一緒に生活することに違和感なく過ごし、良い影響を与えてくれた。
- ・子供が外国人を前にしても恥ずかしがらず挨拶できるようになった。
- ・子供達にとって貴重な体験となった。子供と一緒に入浴するほどお互い仲良しだった。
- ・自分の子育てを再確認、再認識できた。子供達にも良い影響があった。

- ・他の留学生や様々な国の人たちと出会い、国際交流ができた。
- ・マナーやルールはきちんと守り、真面目な学生だった。
- ・「よく学び、よく遊ぶ」学生だった。自分の学生時代を思い出させてくれた。
- ・国が違っても、一人の人間としてお互いに理解し合えることを実感した。
- ・異国の料理を教えてもらった。
- ・向こうの両親に会えて一緒に出かけるなどして楽しかった。
- ・ルールはきちんと守ってくれ、友達ともよく遊び、また家族も大切にしてくれた。
- ・留学生が日本の伝統文化や生活習慣に関心を示してくれたし、異文化や外国の生活習慣、文化、事情が感じ取れた。お互いの国の良い点、悪い点を客観的に観る事でグローバルな視野が広がったと思う。日本のよさに気づかされ、日本の文化を改めて見直すことが出来た。
- ・食事、生活の全般が楽しく、豊かな食卓になったし、家の中が明るくなった。
- ・外国の夫婦の話を聞いて、主人が家事を手伝ってくれるようになった。
- ・忘れかけていた英語が取り戻せそうになった。
- ・留学生が来るたびに色々考えさせられ、ホームステイはとても良い体験だと感じる。
- ・留学生の家族と家族ぐるみの付き合いが出来た。
- ・日本語の良さ、外国語が身近に感じられるようになった。
- ・家族皆留学生のことが大好きになった。
- ・一生涯忘れることのない暖かい思い出を沢山残してくれた。
- ・アジア人だったので親戚の子供を預かっているかのように生活しやすかった。ホームステイが縁で学生の母国に旅行することにもなった。
- ・異文化を肌で感じる事が出来た。
- ・お互いの言葉でゆっくり会話を楽しめた。
- ・いつも明るい笑顔で「ありがとう」などと挨拶もきちんとでき、礼儀正しく素直だった。
- ・家族の中に溶け込もうとする気持ちをいつも持ち、本当に家族の一員となった。
- ・日本語を上達させるために英語を使うのをやめる決心をしてからは特に日本語も上達し殆ど日本語で会話していたが、お互い悩みを聞いたり励ましあったりしてコミュニケーションはとれた。
- ・視野や考え方が広がった。(いろいろな生活習慣、ものの考え方の人がいてあたり前なんだと思えた)

- ・家庭内に新風を吹き込んでくれた。
- ・毎日楽しく生活できた。
- ・知識だけではなく肌感覚で外国人と接することで学びが大きかった。
- ・今後も継続できる良い関係が築けたこと。
- ・感性の高い学生であり、お互いを尊敬し合えた。
- ・本当の家族のような時間を過ごせた。まだいなくなった生活に慣れず、考えるたびに悲しくなる。
- ・家族間の会話が増えた。
- ・初めてのアジアの学生だったが、外見的違和感がないせいか本当に親戚の子を預かっているようだった。
- ・今までほとんど知らなかった国（学生の出身国）の話が聞けてよかった。
- ・家族の親戚や友達など、どんな人にも、礼儀正しく、明るく楽しく接してくれて、嬉しかった。
- ・お互いに話し合い、コミュニケーションをよくとることが大切。相手を思いやることが基本だと感じる。
- ・過去の学生と同じ国の出身でも、性格が全く異なることもあることがよくわかった。
- ・別れが本当に辛かった。再会が楽しみである。
- ・自分達に対して感謝の気持ちを示してくれることが嬉しかった。
- ・誕生日やお別れの際にプレゼントや手紙をくれて、本当に嬉しかった。
- ・留学生の両親とも交流でき、これからも良い付き合いが出来ると思った。これもホームステイプログラムのおかげだと思った。
- ・学生の将来についてしっかりと考え、それに向かって努力を惜しまない姿には本当に感心した。
- ・こちらが学ぶことがとても多かった。自分達の器がまだまだだと感じた。
- ・常に礼儀正しくまじめで優しいので、自慢の息子になった。
- ・相手の気を使うことの大切さを子供が学んでくれたように思う。

B) ホームステイ全般を通じて残念だった点・困った点

- ・引き渡しの際に交わした約束は何も守られなかった。
- ・全てにおいて受身であり相談などがなかった。家族と積極的に交流を図ろうとせず、また、ただの下宿先のような意識があったのか、ホームステイを希望した意図がつか

めなかった。

- ・“付けっぱなし。やりっぱなし”が目立ち、光熱費の節約の協力や「もったいない」という感覚がない。
- ・ホテルかアパートのように思わないで欲しい。家族と生活するという事は日々の家事や家族の決まりごとに協力するということが大切で、その姿勢をもっと持って欲しかった。
- ・本人に悪気はないのだろうが、こちらが心配しているということを理解したり、思いやったりすることができず、自分本位だった。
- ・人の好意を当たり前だと思っており、自分のことは自分でするという最低限のことができていない為がっかりした。
- ・日本語や日本文化にあまり興味がなかった。
- ・家族と一緒に過ごす気がないようで、なぜホームステイを希望したのか理解しにくかった。
- ・何を考えているのかよくわからず、コミュニケーション不足だった。感情をあまり表現してくれないので、単に合わせてくれているだけなのかと悩んだ。
- ・大小関わらず注意をすると全て「忘れてた。」と言った。
- ・文化や性格の違いからか、「ありがとう」や「ごめんなさい」があまりないのが寂しかった。
- ・世代の違いで話題を探すのに少々困った。
- ・日本語を理解しようとしてせず、英語しか話そうとしなかった。
- ・変な日本語ばかりしゃべられて、理解に苦しんだ。
- ・気を使いすぎてかえって裏目にでた。
- ・真面目で信用出来たが、おとなしすぎて家族から話しかけないと話さなかった。
- ・「わかった。」と言ったが実はわかってない事が多かった。
- ・観光に連れて行ってもつまらなさそうにしていた。

2) 留学生との意思疎通に関して

A) 留学生との意思疎通に関して良かったこと

- ・日本語が上手だったので意思疎通において困ることはなかった。
- ・日本語がしっかり話せる子だったので、親子のような会話が出来た
- ・日本語と英語をうまく使い分けてコミュニケーションを取ることができた。

- ・あまりわかっていない時は、ごまかさずにわかるまで何度も確認をした。
- ・電子辞書を活用した。わからないままにするより良かったと思う。
- ・「イエス」、「ノー」をはっきり言うので理解しやすかった。
- ・NO と言えないアメリカ人で非常に日本的だったので接しやすかった。
- ・家族とコミュニケーションを取りたいという気持ちがよく伝わり、大変良かった。
- ・よく話す学生で、日本語のわからないところを質問するなど、常に積極的だった。
- ・冗談を言い合ったり、その日の出来事を話したり、話をしない日はなかった。ジョークも言い合える関係になった。
- ・会話が多くて意思疎通が図りやすかった。
- ・食事の時のいろいろな話題が出て、楽しんで食事が出来た。
- ・お互いの言葉でゆっくり会話を楽しめた。
- ・挨拶、感謝の言葉が常にあった。挨拶もきちんとでき、礼儀正しく素直だった。
- ・いつも明るい笑顔で「ありがとう」などの挨拶があり、気持ちがほころんだ。
- ・最初は堅苦しかったが、慣れるととても明るく色々な話をしてくれた。
- ・最初の1週間は不安があったが、2週間目からは本当の家族のようにコミュニケーションがとれた。
- ・最初の1ヶ月くらいはお互い辞書を引ながらの会話だったが、日増しに理解できるようになった。
- ・慣れるまではこちらも英語を混ぜて話したが、徐々に英語を控えるようにし、学生が日本語の会話練習が出来るように心がけていた。最後にはかなり日本語のレベルが上がったと思う。
- ・初めの間は英語中心の生活だったが、徐々に日本語を増やしていった。
- ・日本語を上達させるために英語を使うのをやめる決心をしてからは特に日本語も上達し殆ど日本語で会話していたが、お互い悩みを聞いたり励ましあったりしてコミュニケーションはとれた。
- ・最初は不安だったが、辞書に助けられた。
- ・最初に来た時は言葉が少なかったが、4ヶ月たつと良く話すようになり、家庭の中が和やかになった。
- ・会話が少ないのでこちらから話しかけ、出きるだけ会話するように努力した。最初は意志の疎通がとりにくかったが、段々お互いの事がわかってくと良い学生だった。
- ・家族といえる時間を大切にし、学生なりに努力してくれた。

- ・家族の中に溶け込もうとする気持ちをいつも持ち、本当に家族の一員となった。
- ・家族に対して大切に思ってくれたこと。
- ・甘えてきて本当の親子のようだった。
- ・家族が増えた感じで、にぎやかで楽しかった。
- ・ボランティアで近所の子供達にも英語を教えたりして積極的に周囲とコミュニケーションをとるので皆の人気者になった。
- ・留学生を通じてお付き合いの輪（家族間、近所等）が広がった。
- ・その日にあったことをつたない日本語で一生懸命話してくれるので非常に好感を持った。
- ・日本語力は「無」と書いてあったが、特に日本文化に興味を示し、否定的な態度が全くなかった。
- ・とにかく愉快で楽しい青年で、娘や息子の家族も楽しませてくれた。
- ・会話を十分にとることができ、お互いの意思疎通をはかることができた。
- ・色々な事を話して楽しい時間を過ごせた。
- ・積極的に家族にとけこもうとする姿に好感を持てた。
- ・お互いの生活習慣、文化、食文化の違いを理解し紹介し合えたこと。

B) 留学生との意思疎通に関して残念だったこと

- ・基本的な挨拶ができない学生で、とても残念だった。「お国柄」という問題ではない、人間としての問題である。こちらからもっと挨拶をするように言うべきだった。
- ・文化や性格の違いからか、「ありがとう」や「ごめんなさい」があまりないのが寂しかった。学生のために出かけても、携帯でメールを送りつづけ、失礼だった。
- ・お互いにわかっていないのに、「はい」と返事をしてしまうこともあった。
- ・あまり会話をしなかった。学生がおとなしく話題が続かない事が多く、会話が少なくなった。
- ・自分の部屋にこもって、家族とコミュニケーションを図ろうとしていなかった。夕食後は自分の部屋にこもることが多く、あまり会話がなかった。何をしているのかわからない。
- ・無口な学生だったのでこちらから気を使っていつも話し掛けていた。もっと自分の思いや困ったことを話してほしかった。
- ・4ヶ月で日本語の聞く能力は上達したが、話すのは苦手なようで、すぐに英語で話し

てしまうので残念だった。

- ・何か言いたいことがあれば、英語でいいので話して欲しかった。何も喋らないよりは表情などから少しでも理解出来ることがあったと思う。
- ・都合が悪くなると嘘をつき、分からないふりをしていた。分からなくても適当に返事をしていた。
- ・家族と一緒に過ごす気がないようで、なぜホームステイを希望したのか理解しにくかった。
- ・何を考えているのかよくわからず、コミュニケーション不足だった。感情をあまり表現してくれないので、単に合わせてくれているだけなのかと悩んだ。
- ・大小関わらず注意をすると全て「忘れてた。」と言った。
- ・世代の違いで話題を探すのに少々困った。
- ・日本語を理解しようとする意欲が見られなかった。日本語を理解しようとせず、英語しか話そうとしなかった。
- ・変な日本語ばかりしゃべられて、理解に苦しんだ。
- ・気を使いすぎてかえって裏目にでた。
- ・真面目で信用出来たが、おとなしすぎて家族から話しかけないと話さなかった。
- ・「わかった。」と言ったが実はわかってない事が多かった。
- ・観光に連れて行ってもつまらなさそうにしていた。
- ・学校側から、わからないと感じたときは家族に聞くようにとよく指導して欲しかった。
- ・実際、生活する中では言葉が通じにくく、意思の疎通ができにくかった。
- ・金曜日の夜から日曜日の夜までずっとパソコンを使っていた。
- ・精神的にダメージを受けていると感じたときに、どうフォローしてよいか悩んだ。
- ・日本語がよく話せる分、腹の立つことをよく言われいやな思いをした。
- ・病気の時や何かを決める時に、ホストの意見を聞かず、自国の母親に毎回確認していた。あまりのマザコンぶりにあきれた。

3) 留学生の生活態度に関して

① 一般的なこと

A) 良かったこと

- ・手伝いを積極的にしてくれた。家事、食事の準備、育児)
- ・夕食の有無や時間、帰宅時間に関しての連絡はちゃんとしてくれたので良かった。

- ・学生の几帳面で規則正しい生活のおかげで、こちらの生活も快適で、メリハリがあった。学ぶ時、遊ぶ時のメリハリがあって良かった。
- ・家族の生活に気を使って生活をしてくれ、とても気持ちが良かった。
- ・私達の生活リズムやパターンに合わせてくれたので困ったことはなかった。
- ・日本の生活によく順応してくれた。
- ・家族に積極的に入ろうとしてくれてとてもうれしかった。
- ・お行儀の良い、気配りの出来る子だった。
- ・分からないことがある時は必ず聞いてくれたので、安心した。
- ・夕食の時間に少しでも遅れそうなときは必ず電話があったので感心した。
- ・連絡をきちんとしてくれたので助かった。
- ・携帯を持っていたので、遅くなる時、外食する時の連絡などとりやすく良かった。
- ・長い時間を居間で過ごしてくれた。
- ・幼い娘とよく遊んでくれた。
- ・家庭の決まり等を一度で理解し、守ろうと努力してくれた。
- ・直接注意することにより、改善された。
- ・勉強も友人関係も前向きだった。よく勉強し、子供の見本となった。
- ・日本人よりも礼儀正しかった。近所の人にきちんと挨拶し、近所から評判だった。
- ・交通費節約のため、徒歩で通学とか工夫しているのに感心した。

B) 残念だったこと

- ・夜型の学生だったので、家族とずれ違いの多い生活リズムだった。
- ・深夜の帰宅や朝帰りのせいで、お昼まで寝ていることがよくあり、子供にも悪い影響がある。深夜に帰宅するので安全面で心配だった。
- ・学生が多忙の為、家族と一緒に過ごす時間があまりなかった。
- ・週末は深夜の帰宅や朝帰りが多く、心配した。
- ・門限を守らないことが続いた。時間にルーズなのでかなりイライラしてしまった。
- ・門限はなかったが、深夜の帰宅が続くときは注意をした。
- ・畳の特性を理解していないため、ゴミや濡れたものを置きっぱなしにしたり、布団を干さない。
- ・トイレやお風呂の使い方は、家族のルールに従ってきちんと守って欲しい。
- ・シャワーの使用時間が長すぎて、家族に迷惑がかかった。朝食やシャワーの時間をき

っちり決めておく必要があった。

- ・外出時に鍵を確認したにも関わらず、持って行かなかったため夜中に起こされることがあり困った。
- ・夕食時に自分だけ買って来たジュースを飲んだりお菓子を食べたりすることがあり、小さい子供の教育にはあまり良くないので困った。
- ・あまりお手伝いをしてくれなかった。
- ・ドアの開け閉めや廊下を歩くのに心遣いが全くなかった。
- ・冷蔵庫は開けっ放し、ストーブは付けっぱなしだった。
- ・電気、暖房器具等の消し忘れがあった。
- ・暖房器具の使い方。暖房器具のつけっぱなしには特に注意してほしい。
- ・何度連絡をするように言っても、連絡をせずに夕食に帰ってこなかった。
- ・パジャマを持っていなくて、次の日着る服を着ながら眠ったり、汗で汚れた服で寝る事があり、布団にカビがはえた。
- ・風邪をひいても病院に行かず、薬も飲んでくれないので、家族全員4ヶ月ずっと風邪をひいていた。
- ・ホームステイの最後の時期は連絡なしでの外泊、夕食に帰ってこないことなどがあつた。
- ・何を使うにも勝手に使われた。何か必要な物があれば、ホストファミリーに尋ねれば良いのに、納屋の戸棚や引出しを自分で探し、勝手に毛布などを使っていた。
- ・和式トイレが使えなかった。
- ・水道代・光熱費が普段の1.5～2倍に増え、驚いた。
- ・シャワーを4日に1度しかしなかった。
- ・携帯電話を持っていなかったのが不便だった。
- ・休日一緒に出かけた際の交通費など、どこまで負担するべきなのか悩んだ。自分で払ってとは言にくい。
- ・全てにおいて受身であり相談などがなかった。家族と積極的に交流を図ろうとせず、また、ただの下宿先のような意識があったのか、ホームステイを希望した意図がつかめなかった。
- ・予定を事前に伝えてくれない点（夕食の有無・帰宅時間等）
- ・エアコンつけっぱなし（服で調節せず）、水の出しっぱなし（シャワー）、乾燥機の使用が多く光熱費がかかった。お客ではないので家族の一員として協力して欲しい。

- ・朝食の時間や、シャワーの時間をきっちりと決めておく必要があった。
- ・外泊が多く、又連絡も遅く（深夜）大変だった。
- ・リビングでケーブルテレビ（英語）をずっと見ていた。
- ・学生が中国人だったので、日中問題がニュースで流れると感情をむき出しにしてきて困った。

② 掃除・洗濯に関して

A) 掃除・洗濯に関して良かったこと

- ・きれいな好きな学生で、部屋は整理整頓出来ていて感心した。
- ・布団もちゃんと干してくれて、ベッドの生活よりも布団を気に入ってくれた。
- ・家族の分まで手伝ってくれた。
- ・計画的で、同じ曜日、同じ時間に洗濯していたので感心した。
- ・洗濯物をきちんとたたんでいるのには感心した。
- ・真面目に1週間に1回、部屋の掃除をしてくれた。
- ・全てお母さんが家族と一緒に洗濯や掃除をしたので問題なかった。
- ・部屋の掃除は自分で行っていたので問題なかった。
- ・あまり掃除はしていないようだったが、言えばしてくれたので特に問題は無かった。
- ・家のものに任せてもらったので、汚れたままにならず却って楽だった。
- ・家族と一緒に洗濯していたので問題なかった。

B) 掃除・洗濯に関して残念だったこと

- ・部屋はいつも散らかっており、定期的に掃除をするという約束が守られていなかった。
- ・洗濯物をまとめて出したり、雨の日に限って多く出すなど困った。
- ・足の踏み場がないくらい部屋が散らかっていた。滞在中、一度も掃除をしてくれなかった。帰国の際も掃除をしてくれなかった。
- ・洗濯はしてあげていたが、クリーニングに出さないといけないものは断ればよかったと思った。
- ・洗濯物の量が多くて困った。
- ・掃除、洗濯を言われるまでしなかった。
- ・4ヶ月間掃除を一度もしなかった。
- ・ごみの分別が出来ていなかった。

- ・ごみの分別、週に1度の掃除機、洗濯物を干す（ぬれたまま放置しない）という習慣などを事前に学校のほうで指導をして欲しい。

③ 食事

A) 食事に関して良かったこと

- ・食わず嫌いをせずに、初めてのものでもとりあえずチャレンジしてくれたので好感を持てた。
- ・素直に好き嫌いを教えてくれるのでやりやすかった。
- ・時々、自国の料理を作ってくれたので食卓が国際色豊かになった。
- ・食事の時いろいろな話題が出て、楽しんで食事が出来た。
- ・食事を美味しく食べてくれる事はとても嬉しく、作りが良かった。「日本に来て食事をきちんと取るようになった」と言っていたので、料理に力が入った。また、こちらの料理の勉強にもなった。
- ・時々、料理を作ってくれた。帰国の前には母国の料理を作ってくれた。
- ・和食中心の家族だったが、嫌がらず食べてくれて助かった。和食中心なので物足りなかったかもしれないが、不満な顔ひとつしなかった。
- ・食器洗いを毎回欠かさずやってくれた。
- ・好き嫌いがなく何でも食べてくれた。
- ・作ったものは何でも喜んで食べ、何でも努力して食べようとしてくれた。食卓につく前に「あー、おいしそう」と言ってくれたり、最後に必ず「美味しかった」と言ってくれるのが嬉しかった。
- ・納豆でもキムチでも喜んで食べてくれた。
- ・留学生のおかげで子供も野菜を食べられるようになった。
- ・家族と同じ物を食べられるよう、努力してくれた。
- ・初め嫌いな物でも、好きになって食べてくれた。
- ・アレルギーがあり、日本食が全く食べられなかったが、段々チャレンジし、大好きになったことはホストとしてうれしい限りだ。
- ・ベジタリアンの学生だったので、少し気を使ったが、あまり普段食べない豆類や温野菜が増えて、健康によかったような気がする。

B) 食事に関して残念だったこと

- ・日本食にあまり挑戦しようとしてくれなかった。
- ・日本食が苦手だった。
- ・好き嫌が多く、メニューが限られてしまい気がつかった。
- ・家族の食事の嗜好と合わなかった。
- ・学生の資料には「日本食が好き」とあったが、学生が外国で食べる日本食が実際の日本人の食事とは違い、誤解があったようだ。
- ・残念だった点ではないが、学生の資料に「甘い菓子が好き」とあったのに実際には食べないので不思議に思っていたら、アメリカの独特の甘さが好きで日本の甘さは物足りないということが判明した。
- ・初めて見る食事には手もつけず見るだけで、食べるように促すと嫌々食べているようだった。
- ・好き嫌いを家族に伝えるように言っても、何も言わなかった。
- ・カロリーをかなり気にしていたようで、食事に気を使った。
- ・好きではないものには箸をつけなかった。
- ・嫌いな食べ物は『特に無し』と資料に書かれていたのに、一緒に生活してみても食べられないものが多すぎて大変困った。「日本食がとても好き」と資料に書かれていたが、実際はあまり日本食は食べず、肉やファーストフードのものだけを食べていた。
- ・野菜を全く食べない為、メニューが限られてしまい困った。
- ・食事は何でも食べてくれたが「おいしい」 ありがとう」等全く言わないので、好きか苦手かわかりにくかった。
- ・食べたそぶりで隠され、後で出てきて悲しい思いをしたことがあった。いらない時はそのまま残して欲しい。
- ・留学生の引き渡しの際に朝食の時間を決めていたはずなのに、常に自分で勝手に食べていた。朝食を作っても学生の気分次第で食べなかった。
- ・食事を待たずにスナックなどを先に食べて、夕飯をほとんど残していた。
- ・食事の有無の連絡がない。あるいは、急に変更する為、食事が無駄になったり困ったりすることがあった。早目に連絡して欲しい。
- ・平日、お金がないのでお弁当を作って欲しいと遠回りに頼まれたことがあった。休日で別行動の日でも、食事はほとんど自宅で食べていた。少し負担に感じる時もあった。
- ・平日はお昼頃帰宅し休日も家にいることが多く、平日の昼食も用意をすることになった。

た。

- ・配膳、下膳の手伝いをしてくれなかった。
- ・マナーが悪い。音を出して食べる。お茶碗を手に持たない等)

④ 電話・パソコン

A) 電話・パソコンに関して良かったこと

- ・家族のパソコンを使うときは必ず事前に了解を取ってくれた。使う時間帯が異なるため、特に問題はなかった。使用時間も節度をわきまえていた。子供とパソコンを共有していたが、2人で相談してうまく使う事ができていた。
- ・携帯電話のおかげで連絡がスムーズに出来た。インターネットを学生本人の部屋で使えるようにしてあったので、問題なかった。
- ・自分のパソコンを持っていたので特に問題はなかった。
- ・インターネットが使える状態だったので問題なかったと思う。
- ・こちらが知らない高度なパソコンの技術を教えてくれた。
- ・家のパソコンを貸してあげると自分が使いにくくなり大変困ったので、大学のコンピューターを使うよう話したら、すぐ分かってくれ、その後は家のパソコンを使わなくなったのでよかった。
- ・4ヶ月目にはかかってくる電話を取ってくれるようになった。

B) 電話・パソコンに関して残念だったこと

- ・外出する時は、学生が持参したパソコンの電源を切って欲しい。
- ・携帯電話は学生にとっては出費になるかもしれないが、一緒に生活をしていく上で必要だと思うので、持つようにしてほしい。
- ・携帯電話のマナーが悪く、家族で食事中も遠慮するという心遣いがなく、とても残念だった。
- ・インターネットを接続したことで問題が増えた。インターネットの利用は学校でして欲しい。
- ・国内への電話にも料金がかかることを知らなかったようだった。
- ・24時間オンラインにして良いとしていたが、結局自分の部屋にこもりっきりになってしまい、後悔した。
- ・夜中はパソコンを使ってはいけないと言っていたのに無断で使用していた。家族のパ

ソコンは使わない約束だったのに、結局使わせて欲しいと言われ困った。

- ・インターネット接続料金を毎月払ってくれるという約束だったが、後期からは全く支払ってくれなかった。
- ・インターネットで長々と話したり、勝手にデーターをダウンロードしたり、大声でチャットしたりするので、不便だった。
- ・勝手に家族の部屋に入り、インターネットをしていた。
- ・勝手に国際電話を使っていた。払わずに本国へ帰った。
- ・自分のパソコンを持っていたので部屋に閉じこもりがちだった
- ・電話、パソコンの使用許可を申し出ないこと、また使用時間が長い。
- ・使ってもいいかと許可は求めるが、支払うことはなかった。
- ・当初は一回一回了解を得ていたが、段々と了解をとらずに勝手に掛けるようになった。注意すればよかったが、タイミングをつかむのが難しかった。
- ・携帯・パソコンを持っていなかったので家の電話をよく使った。
- ・時差の関係で夜の 10 時、11 時にかかってきた電話で 1 時間以上の長話が週 2-3 回あった。
- ・隠れて PC のアダルトサイトを見ていたのでショックだった。
- ・夜中にスカイプで話していて困った。時差の関係といわれ注意しづらかった。

⑤ 友人の招待

A) 友人の招待に関して良かったこと

- ・学生が友人とパーティーを企画したり料理を振舞ってくれるなど、一緒に楽しく過ごせたので、来客は負担ではなかった。
- ・普段から話題に上がった友人の招待だったので、人柄がわかっていたため安心して了承できた。
- ・友人を招待するときは事前に相談してくれた。学生の友人も行儀が良く、楽しくにぎやかな時間を過ごすことが出来た。
- ・自分の国から来た友人や家族を紹介してもらい、交友関係が広がり楽しい夕食会が出来た。
- ・パーティーは何度かあったが、費用を払ってもらい、飲むものは留学生が買って来たため家族の負担はなかったし、家の決まり事も留学生から友人に説明があった。
- ・子供たちが留学生の友達と何度か会ううちに、みんなが親しくなれた。

- ・何回か招待するうち、自分で巻き寿司や他の覚えたメニューを作って招待することもあり楽しんでた。
- ・ハイキングやバーベキューに招待して喜んでもらった。
- ・ひなまつりパーティーやなべパーティーなど日本らしい習慣をととても喜んでくれた。

B) 友人の招待に関して残念だったこと

- ・事前に断りもなく、急に友達を連れてきた時は困った。
- ・友人を泊ませたことはあったが、夜中まで大きな声で話したり騒いだりして、家族だけではなく近所迷惑だった。
- ・何度か友人を招待してはどうかと持ちかけたが、結局連れて来ず、少し残念だった。
- ・週末にボーイフレンドと帰ってきて部屋の中でずっと過ごしていた。注意をしたがあまりわかっていなかったようだった。
- ・友達が来ても一緒にテレビゲームをするだけだった。
- ・友人の態度が無礼であつかましく不愉快だった。
- ・何度も大きなパーティーをさせられて大赤字だった。
- ・許可無しに家に友達をあげ、また留守中にも部屋にあがっていて困った。

4) 留学生の日本語学習態度に関して

留学生の日本語学習態度に関して良かったこと

- ・勉強熱心で感心した。
- ・日本語習得の意欲は大変良かった。メモを取ったり、質問をたくさんしたりしてくれたので、こちらも学生の日本語能力の向上に貢献できてうれしかった。
- ・日本文化を常に学びたいという姿勢を持っていた。積極的に交流を図って、たくさんのことを吸収しようとしていた。
- ・よく勉強をしていて、感心した。子供達に良い影響を与えてくれた。
- ・日本語習得の意欲は大変良かった。日本語上達のため何でも必死に聞き、メモをとっていた。質問をたくさんしてくれたので、こちらも一生懸命教えた。
- ・とてもまじめで、宿題の手伝いを頼むこともなく、全て自分でこなしていた。
- ・日本文化を常に学びたいという姿勢を持っていた。

留学生の日本語学習態度に関して残念だったこと

- ・ホームステイをしたい理由に、日本語を上達させたいとあるのに、日本語での会話を自分から積極的にしなかった。日本語の授業で学んだ事を家で実践しようとしなない。
- ・学生は英語でしか話しかけてこない為、本当に学生の日本語能力が向上したのかわからない。
- ・宿題などの質問をするのは良いが、就寝前の夜遅くにされるのはあまり好ましくない。
- ・勉強が忙しそうで、少しかわいそうだった。勉強ばかりしていて、会話が少ないこと、また、一緒に過ごす時間が少ないということは残念だった。
- ・テスト前でも勉強していなかった。
- ・日本語を全く勉強しようとしなかった。日本の文化などに関心がなかった。

5) 英会話の練習に関して

A) 英会話の練習に関して良かったこと

- ・子供のためにゲームなどをして英語に楽しく触れさせる機会を作ってくれて良かった。
- ・子供たちが英語を教わり、英語に興味を持てた事。
英語を知らない子供たちにも、親切に接してくれたこと。
- ・子供に一生懸命教えてくれた。
- ・子供が学校で勉強した英語を家で使えた。
- ・食事の時や家事の手伝いなど、日常生活で実践的な英語の使い方を教えてもらえた。
- ・積極的に英語を教えてくれ、子供達も喜んでた。
- ・大学の勉強が忙しいのに時間を作って練習してくれた。
- ・英語で書いた日記をチェックしてくれて、とても勉強になりうれしかった。
- ・時間を決めて練習するという形はとらなかったが、自然と会話の中で英語に触れる機会があつて良かった。
- ・英語のわからない所を説明してもらえた。
- ・辞書に載っていないような話し言葉やイディオム、ジョークや早口言葉を色々教え合ったりした。お母さん英語で話してみて。」と英語を練習する英語オンリーの時間を作ってもらった。
- ・英会話に慣れることができた。

B) 英会話の練習に関して残念だったこと

- ・(子供に) もっと教えて欲しかったが、どう教えていいのか分からなくて困っているようだった。お薦めの教材はないのだろうか？
- ・日本語が上手だったので、日本語を教えたかった娘は寂しそうだった。
- ・留学生が英語を使いたくないと主張していたので、こちらが期待していた英語の練習が出来なかったのは残念だった。もっと教えて欲しかった。
- ・子供に英語を教えて欲しかったのに、教えてもらえなかった。
- ・英会話の練習を約束していたのに、日本語会話ばかりだった。
- ・子供に教えてくれていたが、子供は興味がなく残念だった。
- ・キャンパス内では英語しか話せないからもっと日本語を話したいと言われ、気を使って英語で話せなかった。
- ・英会話の勉強を頼んでも乗り気がなく、いつも話をそらす感じだった
- ・英語の学習を頼んだのに、苦手なようで一度もしてくれなかった。
- ・もっと英会話の練習をしたかったが、学生の時間をどの程度割いていいのかわからなかった。やり方がよくわからない。
- ・つつい英語での会話になることも多く、英語を話せる機会があり良かったが、相手にとっては日本語を学びに来ているのもものたりなかったかもしれないし、学生の日本語が伸びなかったのではないかと感じた。

6) その他のコメント

- ・これからはホームステイではインターネットが必要だと感じた。
- ・人が一人増える事にこんなにお金がかかるとは思っていなかったなので、とても苦しい生活になった。しかし、得るものもたくさんあり、また引き受けたい。
- ・困った事に直面した時は直接その場で言うことが好ましいと思うので、その都度言うように心がけている。
- ・何事にも気を使ってくれて控えめで外国人のイメージが変わった。
- ・日本文化を教えるため、花札を教えたら、大好きになって帰った。

7) 留学生が失礼だと感じたこと・日本語表現

マナーの問題で失礼だと感じたことには、テーブルに足を乗せる、靴をそろえない、傘をささないからぬれたまま部屋に入ってくる、帰っても手を洗わない、靴をはかない

で庭に出て汚い足のまま家に入ってくる、挨拶をしない、という答えがあったが、気になるのであれば始めに気づいた早い時点で説明し、注意をし話し合うことが必要である。

学生が適当でない日本語を使用した際のホームステイの対応として、学生が間違えるのは当たり前なので失礼とは思わないと答えている家庭と、失礼だと思いが訂正しないで我慢していると答えた家庭とがある。学生の日本語レベルによってもホームステイの持つ印象は変わってくる。初級レベルの学生が日本語を間違えるのは当然で、直しやすいが、だんだんレベルが上になるにつれて、学生も自信がつき、間違いも複雑になり、訂正すると留学生の自尊心を傷つけてしまい不機嫌にさせ訂正しにくい状態になっているようだ。日本人学生と話す時に使用するカジュアルなスタイルに慣れてしまい、そのままホームステイにも同じスタイルで話したり、ぞんざいな表現を使用してしまい、ホームステイは学生に対して抱いている上手だという期待感とのギャップが生まれ、失礼な学生だという悪感情を持ってしまうことがあると思われる。以下、その例を挙げておく。

- ・学生の用事で連れて行ってあげる場合なのに「一緒に行きたいですか。」と聞かれる。
- ・「渡しましょうか」というべきところを「ほしいですか。」と言われる。
- ・目下の学生に「またな」「これ食べるか」「ありがとう」「知らん」「あかん」等と言われるのは心外だ。
- ・「おいしい？」と聞いても「おいしい」を言わないで「まあまあです」
- ・挨拶をしない、特に「ありがとう」も言わない。
- ・「おいしい」と聞いても「うん」「ふん」と答えるだけ。「ああ、べつに」というのは失礼だ。
- ・注意した時、「そうですか」と言わないで「そうですね」と言う。
- ・「女性」と言わずに「女」と言うのは下品だと思う。
- ・「これ食べますか？」と聞いた場合、「大丈夫」と答える。食べるのであれば、「食べます」、食べないのであれば「食べません」と答えるべきだ。

ホームステイの家族がホームステイをする動機として、「異文化・国際交流」「他の国の生活習慣、考え方を知りたい」「英会話ができる」も多いが、前述のように「子供に英語を触れさせたい」という理由が半数近くあった。ホームステイの経験に関しては、今回が初めてという家庭が16、2回目目が10家庭、3回から10回の平均が6家庭、12回から18回がそれぞれ2家庭、20回が4家庭、26回、32回、36回がそれぞれ2家庭、

最高の 42 回が 1 家庭であった。ホームステイをするのが初めてではない家庭が多く、留学生の対応に慣れた家庭が多いのがわかる。最高で 30 年している家庭もあった。経験の長い家庭は留学生の悩み、問題などを予測して防ぐことが出来るという良い点があるが、マナー化したり、他の留学生と比較したりしてしまうという欠点もあるのでホームステイ家族は留学生が来るということを意識してもらいたい。

ホームステイの家族が留学生と日本語を話すとき、「食べる?」「おいしい?」という普通体のスタイルを使うという家庭が 100 家庭中 64 家庭、関西弁も使うという家庭は 28 家庭であった。留学生はホームステイではほとんど日本語で話そうと努力していて、ホームステイ家族もそれに対していいことだと協力的で、日本語で答えるよう手助けしていると答えている。中にはもっと英語を使ってほしいというホームステイも 2~3 家庭あった。留学生が英語しか話さないと答えた家庭は 5 家庭あるが、その留学生の日本語のレベルはすべて初級レベル 1, 2 に限られている。学期の途中であったため、その後徐々に日本語が増えていっているかもしれない。その中で、日本語レベル 1, 2 の留学生に対して日本語が話せないため、もっと日本語レベルが高い留学生を希望すればよかったと答えている英語を話さないホームステイ家族も少ないがあった。

8. ホームステイから国際交流部への要望など

- ・学生から、ホームステイをしている友達の中では、日本語禁止、食事を作ってくれない、食事の時間が非常に遅い等、について悩んでいると聞いた。
- ・嫌いな食材、野菜などはもっと詳しくアンケートをとって欲しい。
- ・アメリカなどでの常備薬を国際交流部で用意して欲しい。
- ・薬などに対してアレルギーがある場合は、事前に家族に話しておくよう指導してほしい。
- ・プロフィールの好き嫌いの記入欄が間違っている場合があり、正直に記入して欲しい。
- ・帰国のチケットは早く取るように学校から言って欲しい。ぎりぎりに予約し空席がないから 30 日以降も泊めさせてほしいと言われ、困った。
- ・少なくとも 1 ヶ月に 1 回、定期的に学生にも家族にも様子を聞いて欲しい。
- ・大学から定期的に連絡してきてほしい。些細な問題かもしれないと思い、こちらからは連絡しにくいいため、大学から様子を聞いて欲しい。
- ・オリエンテーションでは、学生がホストファミリーに順応しなければいけないこと、生活習慣や文化の違いに対して忍耐強く、もっと寛容になること、全員が良い結果に

終わるとは限らず、自分が家族に適応する努力をすることなどを伝えるべきだと思う。

- ・日本の細かい日常生活についてオリエンテーションで詳しく説明して欲しい。
- ・オリエンテーションで何を説明されているのか知りたい。
- ・定期的に学生にも様子を聞いたり、ホームステイの学生のミーティングを開いたりすると思う。家族との生活がどんな様子なのか躊躇せずに話せる機会が定期的にあるといい。
- ・携帯電話の契約の仕方、使い方などの指導をして欲しい。
- ・事故が起きてしまった時の対応の指導が必要。
- ・水道代・光熱費の高さを認識し、節約の意識を持つようにしっかり指導して欲しい。
- ・「郷に入っては郷に従え」というけれども、日本（家族）の生活習慣に合わせ、適応することが大切だと指導してほしい。
- ・ホームステイ受け入れを長く続ける秘訣は何なのだろうか？
- ・他のホストファミリーの方とも交流を持ちたい。他のホームステイの様子を知りたい。我が家では日帰り旅行を1-2回程度お互いに相談して行っているが、最近宿泊旅行をしているファミリーが多いと聞いた。どのくらいの家庭がどのような頻度で行っているのか知りたい。
- ・ホームステイを希望する学生の適性や動機をもう少し見極めて欲しい。

9. 留学生から国際交流部への要望など

- ・もっと早く家族の情報を教えて欲しい。留学の出発前だったら、その家族に適したお土産を用意できたと思う。
- ・オリエンテーションでは、ホームステイについて十分説明されていたと思う。
- ・その家族のことをもっと知ることができるかもしれないので、その家族が過去に受け入れた学生と連絡が取れるといいと思う。

10. まとめ

ホームステイで留学生が家族とコミュニケーションをする時間はセミナーハウスに住んでいる学生より長く、1日に短くても30分から1時間、平均1~2時間は日本語で話している。一方、セミナーハウスに住んでいる留学生でクラス以外で一日に全く日本語を話すことがないと答えた学生は数人いる。自分から日本人学生に話しかけたり出来る積極的な留学生は問題ないが、おとなしい消極的な留学生の場合は、セミナーハウス

に住んでいるとせっかくクラスで習った日本語も応用できないという問題も抱えている。このことからホームステイの環境は消極的な留学生にも、否応無しに日本語を話さなければならない環境にあり、文化習慣を吸収するよい動機付けにもなるわけである。且し、ホームステイが英語を話さず、留学生の日本語のレベルが低い場合、お互いに共通のコミュニケーションの手段がないので注意が必要であろう。

初めは、留学生もホームステイ家族の話すスピードや知らない表現にとまどうこともあるが、お互いの努力でスピードにも慣れて、聞き取り能力が上がった事例が多い。ホームステイ家族は日本語レベルが低いからといってフォーリナートークをしなくても学生は順応していく。関西圏出身のホームステイ家族は標準語を話さなくてはならないと堅苦しく思う必要はなく、関西弁を使用しても留学生は楽しんでいるようだ。しかし、日本語のレベルが低い活用がうまくできていない留学生には標準語と異なる関西弁の「きれいかった」などを聞くと、クラスの日本語と実際の日本語と違うのかと戸惑うので、注意が必要である。

ホームステイをしている留学生のアンケートで多く見られるように、良かった点、悪かった点は同じ事象について述べられている。肯定的にとると良かったと答え、否定的に捉えると残念だったという感想になる。例えば電気やクーラー、ヒーターを付けっ放しにするなどホームステイに言われても、細かいうるさい事ばかり言っていると気にしない留学生と、注意されることで日本のエネルギー事情を知り、日本の光熱費への意識が高まったと言う留学生と2通りある。魚料理や野菜料理を出された学生は、本当の日本料理が経験出来なかったと言う留学生もいれば、今までに食べたことがないものを食べることが出来て嬉しかったと言う留学生もいる。設定された門限も、厳しすぎると感じる留学生もいれば、適切な門限だし、間に合わない時は事前に連絡すれば問題ないと理解を示し、門限や日本の部屋が寒いことなどで我慢強くなったし、成長したとプラス志向に捉えている留学生もいるのである。

異なる考え方もお互いに理解しようと努力しあえば、誤解も解消され否定的な意見も肯定的に変わるはずである。日本では一回言えば相手が理解するはずだという思いで、学生に1回しか言わないと、それは学生には伝わらない。その都度意見を伝え、理解を求める必要がある。留学生も注意されないからその行為が許されたと解釈しないで、注意されなければなにをしても構わないということにはならないことを理解して、まめに了解を得るよう心がける必要がある。お互いに自発的なコミュニケーションを図っていけば誤解、わだかまりも解け、スムーズな関係が結べ、そのことが日本語学習効果もも

たらしめていくことに繋がっていく。もしお互いに変だ、失礼だと感じた場合、それを異文化の違いのせいだとあきらめないで、お互いの文化や生活習慣を知り、理解し合う努力が求められる。

最近では携帯電話も、ホームステイ家族との連絡手段として有用なため、ホームステイをしている留学生にとって必需品となりつつあるようだ。通話で日本語を話したり、メールの時日本語を書いたり読んだりする機会が増えるため、日本語学習の支援の働きをなしているようだ。今回のホームステイをしている49人のうち85%の42人が携帯を所有し、そのうちの約70%の29人が日本語で携帯メールを打つと答えている。メールの時の日本語に関しては日本人の友達には普通体を使い、ホームステイ家族には「です、ます体」で書くと言っている留学生が多い。これに対して、セミナーハウスに住んでいる留学生の携帯電話所有率は低く、50人中半数以下の24人しか持っていない。日本語でメールをすると答えた留学生はこのうち約70%の17人で、日本人の友達としかメールのやり取りをしないため、普通体しか使わないと言う。

ホームステイで留学生は習った日本語文法や表現を使おうと試み、通じる喜びを感じるとまた日本語学習を続ける動機付けとなる。ホームステイでは留学生がクラスで習った日本語をすぐ話してみたり、宿題を一緒に考えたり出来るというまさに恵まれた環境にある。ホームステイの家族も留学生の日本語学習効果をより高めるために、留学生の日本語を我慢強く聞き理解し日本語で答えようとする協力的な姿勢が必要である。アンケートにおいて、ホームステイの全家庭が協力を惜しまないと答えている。

しかし、注意が必要な点もある。日本語能力が高い学生は、全く日本語が話せない学生よりコミュニケーションがうまくいくかという点とそういうわけでもない。ホームステイ家族は日本語の能力が低い留学生には期待度が低く間違えても許し、丁寧に教えるが、日本語能力が高い留学生に対して期待するレベルの日本語が話されない場合、期待が裏切られるせいかな許容範囲がせばまり、この留学生は失礼だという評価をしてしまいがちだ。日本語のクラスでちゃんと教えられないのかと日本語教員にまで否定的な感情を持つこともある。日本語クラスでもホームステイをしている留学生には特にスタイルを注意させることが必要であろう。例えば日本語のクラスで、日本語教員も普通体を導入した後、留学生には「おはよう」とホームステイ家族に普通体で言われても「おはようございます」とスタイルを変えて答える意識を常にもたせることや、疑問文を作る際ぞんざいになっていないかなどの導入後の注意、練習指導なども必要である。文末の助詞はかなり上級者でも間違えやすく、日本語教育の第一人者でも「よ」と「ね」を適切に使

えない学者がいるくらいである。「トムさん、日本語が上手になりましたね。」と誉められて、「はい、そうですよ。」と自慢気に答えると、ホームステイ家族はいい気がしない。

「晩ごはんは何がいい？」と言うホームステイ家族の質問に対して、「ステーキでもいいです。」と平気で答える留学生への指導も必要である。このように日本語教員も折りあるごとに留学生がクラス外で使用している日本語を確認し、特に留学生とホームステイ家族とのコミュニケーションが円滑にいくよう支援していくことが必要である。

丁寧体、普通体など文末表現の選択は人間関係により変わり、主観的な要素が多く含まれる。日本人でも悩むこともあるくらい難しい。同年齢の日本人学生と話して普通体に慣れている留学生にとって、親しみの表れだからといって、ホームステイ家族にも普通体を使用してもいいと決めつけるのは慎重であるべきだ。安易に普通体で話し始めず、ホームステイの家族にどのスタイルが適当だと思うかを尋ねてから、使用するのもコミュニケーションを損なわないための一つの方法であろう。もちろん、場合によってスタイルを変えることもあり得るが、コミュニケーションをスムーズに行うためには、少々丁寧すぎると思ってもぞんざいなスタイルが人格を否定されることに繋がる場合もあるので、迷った場合は丁寧なスタイルを用いる方が留学生にとって安全である。

留学生の目的で一番多いのは日本語の上達、特に話す、聞く能力を伸ばすことである。日本語の文法、表現を理解していても、実際の場で使えなければ意味がない。日本語教育の現場の日本語教員による学生観察においても、かなりの数のホームステイをしている学生の日本語能力は、していない留学生と比べて、自然な発音、会話能力、応用力があるという点で優位性が見られる。クラスで習ったことをその日のうちに実際に使える、聞けるという理想的なホームステイの環境において、ホームステイ家族の支援、日本語教員の支援を得て、また日本語教員とホームステイ家族の連携した支援を得て留学生の自発的な努力をもってすれば、ホームステイ家族と留学生のコミュニケーションが密に行われ、さらなる日本語学習効果を得られることは間違いない。

(添付資料 1, 2)

留学生へのアンケートは (鎌田・山内編 1996) を参照している。

(資料1) 留学生へのアンケート

Your name: _____ (Or JPN level, nationality, sex)

Housing: A. Home Stay / B. Seminar House / B. Own

Is this the first time to come to Japan? Yes / No (this is the _____ time)

What made you decide your housing? _____

A. If you are with Home Stay family, answer the next.

● This is the 1st / 2nd / 3rd / 4th / 5th / 6th time.

Could you describe your host family members by filling out the following chart?

	father	mother	childA	childB	childC	GrandF	GrandM
Age							
Job							
School							

c.f. Professional housewife: しゅふ

● If there is additional important information about the members of the host family, please describe it.

● Does any member of the host family use English in conversation with you?

Yes / No

● If 'yes', which member of the family is it? _____

● How often does s/he use English?

Always / Very frequently / Sometimes / Very rarely

● Who do you speak in Japanese with most frequently? _____

● Who do you speak in Japanese with least frequently? _____

● Is there regular contact with Japanese besides your host family members?

Yes / No If 'yes', who are they? _____

● What are the most major topics of conversation when you talk with your host family members in Japanese? Give top three topics.

1

2

3

●What are the major topics of conversation when you talk with a Japanese other than your host family members? Give top three topics.

1

2

3

●Do you think your proficiency level would increase without living with a host family?

●Why do you think so?

●What aspects of Japanese language do you think you are learning most by home staying? Give top three aspects.

1.

2.

3.

Please go to question C.

B. If you are in Seminar House or in an apartment, answer the next.

●Do you try to speak Japanese? Always / Very frequently / Sometimes / Very rarely

●How long a day? ()

●Who do you speak in Japanese with most frequently? And Where?

●What are the most major topics of conversation in Japanese? Give top three topics.

1.

2.

3.

●Do you think your proficiency level would increase without living with a host family?

●Why do you think so?

Please go to question C.

C.

●What aspects of Japanese do you think you should have learned prior to coming to Japan?

●Have you watched TV programs? Yes / No

●Have you listened to radio program? Yes / No

If 'yes', which ones are your favorite programs?

●TV programs

●Radio programs

●What do you learn from watching TV programs or listening to radio programs?

●Have you read Japanese newspapers? Yes / No

●If 'yes', what did you read in newspaper? _____

●Do you have a mobile phone? Yes / No

●If 'yes', do you mail in Japanese? Yes / No

●If 'yes', to whom and about what do you mail? _____

●If you mail in Japanese, do you use –masu form or casual form? Why?

●Is there any memorable moment for your Japanese learning outside classroom in Japan so far? Yes / No

●If 'yes', please describe it.

●Could you discuss any factors other than in-class study contributing to your progress in learning Japanese in Japan?

(資料2)

ホームステイ家族への質問

- ・留学生の国籍： () (これに満足ですか:はい/いいえ、理由 ())
- ・留学生の性別：男/女 (これに満足ですか:はい/いいえ 理由： ())
- ・留学生の日本語レベル：JPN1/2/3/4/5/6 1が初級です。留学生に聞いて下さい (そのレベルに満足ですか:はい/いいえ、理由： ())
- ・留学生の年齢 : (歳)
- ・その年齢に満足ですか: はい/いいえ、理由： ())
- ・ホームステイ歴：今回が () 回目
- ・ご出身 (e.g. 関西圏 / 関西圏以外 ())
- ・留学生受け入れの理由、動機 ())

- ・留学生と1日に何時間ぐらいコミュニケーションされていますか： () 時間ぐらい
- ・家族の中で主にどなたが話していますか：複数可) () 、 () 、 ())
- ・留学生と話す時の言語：
 - 日本語で、e.g. 「食べますか」、「おいしいですか」のようなフォーム
 - 日本語で、e.g. 食べる? おいしい? 買ったの?のようなフォーム
 - 関西弁 (関西弁の理由： ())
 - 上の日本語と英語のちゃんぽん
 - ほとんど英語 (英語の理由： ())
- ・お互いにどんなことを話しますか。 具体的な言葉、文章でも結構です)
 - (())
 - (())
- ・留学生が話す言語：
 - 日本語を話そうと努力している : はい・ いいえ
 - 関西弁まで習得しようとしている : はい・ いいえ
 - 日本語と英語のチャンポンで : はい・ いいえ
 - ほとんど英語で話す : はい・ いいえ
- ・それについてどう思いますか (())
- ・日本語についての質問をしてきますか : はい・ いいえ
- ・例えばどんな質問ですか? (())

- ・日本語で意思疎通が出来なくて、困ったことがありますか はい・いいえ
- ・どんな事で？ ()
- ・その時どうしますか。 ()
- ・留学生の使う日本語が不適當で失礼だと思ったことがありますか：はい・いいえ
- ・どんな不適當な・失礼な日本語ですか ()

- ・不自然・変だと思ったこと (e.g.挨拶をしない)

()

- ・日本語のクラスで習ってきた文法などを使っていますか：はい・いいえ
- どんな文法でしたか ()

()

- ・日本語の間違いや日本語の質問に答えて日本語能力の向上に貢献したいと思われ
ますか：はい・いいえ

- ・質問されて答えに困ったことがありますか：はい・いいえ
- (どんな質問：)

- ・留学生と取り決めた規則がありますか：はい
- (どんな規則：

- ・取り決めに留学生は守っていますか：はい・いいえ
- ・生活文化の違い(異文化)で困ったことがありますか：はい・いいえ

- ・例えばどんな事で困りましたか。

()

- ・その時、どうしましたか。どうしますか。

()

- ・留学生のすごいな・いいなと思う点がありますか：はい・いいえ
- (例えば)

- ・どんな日本の文化や生活行事を教えてあげたいですか：はい・いいえ

(例えば

)

参考文献

鎌田修・山内博之編（1996）ホームステイにおける日本語学習効果」『日本語教育・異文化間コミュニケーションー教室・ホームステイ・地域を結ぶものー』（財）北海道国際交流センターpp.41-61

久米照元・長谷川典子（2007）『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション、誤解・失敗・すれ違い』 有斐閣選書

鹿浦佳子・武田千恵子（2000）ホームステイの功罪とホームステイプログラムへの提言」『関西外国語大学留学生別科日本語教育論集』第10号 pp.33-50

(shikaura@kansai.ac.jp)